

郡山市環境審議会からの意見に対する回答

議案第2号「(仮称) 郡山市地球温暖化対策総合戦略における目標設定とロードマップについて」

| 委員名 | 意見 | 回答 |
|---------|--|--|
| 難波謙二会長 | <p>Carbon Neutral City Koriyama のスローガンは魅力的です。住民や事業者が個々の具体的課題に対応して市として実現を目指す原動力となることを願います。</p> <p>リゾーム型施策体系は、多くの要素が複雑に関係しているということは了解しやすいので分かるような気がします。バックキャスト思考というのは未来で実現すべき姿から今を考えるという説明があります。リゾーム型とセットになっている意味も分かります。柱+2で描かれる未来について強いイメージを目標として共有する必要があるそうです。</p> | <p>「Carbon Neutral City Koriyama」を表紙に明記するなど、市民・事業者・行政がビジョンを共有できるようにしていきます。</p> <p>リゾーム型、バックキャスト思考については、本文においても説明していきたいと思えます。</p> |
| 會田久仁子委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・目標設定とロードマップ作り、ご苦労がしのべれます。大きく期待します。 ・SDGsについて、くり返しくり返し市民に対する露出と説明が必要だと思えます。 | |
| 大場真委員 | <p>1 他の委員のご意見も参考にさせていただきたいのですが、今回策定する戦略の名称が「地球温暖化対策」というキーワードを軸となっていますが、国際的な気候変動に対する世論や、今回新たに気候変動に対する適応対策に関する計画も含むことを考慮すると、「気候変</p> | <p>1 ご指摘のとおり、「気候変動対策」としたいと思います。</p> <p>2 ご指摘のとおり、目標像は「まち」、対策・施策は「まちづくり」に統一いたします。</p> <p>3 脚注等に用語説明を記載してまいります。</p> |

| | | |
|---------------|--|--|
| | <p>動対策」をキーワードとした方が、より理解しやすい名称となると考えました。</p> <p>2 資料6における総合戦略の骨子について、施策体系は、カーボンニュートラルシティや持続可能な社会など、目標像である市や社会を指すので、目標像の語尾は「まち」とした方が望ましいのではないのでしょうか。施策そのものは「まちづくり」等で良いかと思えます。</p> <p>3 資料中にDX, EMS, ZEB, ZEHなど、一般の市民にはまだなじみのない用語があるので、一般向け資料を作成される際には用語解説をつけるなど、親しみやすい計画とされる方がよろしいかと思えます。</p> <p>4 郡山市では先進的にSDGsに取り組まれており、議案第一号でも指摘しましたが、市全体として持続可能な社会づくりが行われているか総合的取組が必要であり、それを判断する評価が必要であると考えました。その第一歩として、2の指摘と関連して、施策体系と各施策がどのようにSDGsの各ゴールを達成し、相互に関連しているかという図を入れることが望ましいと思いました。</p> | <p>4 施策体系においては、関係するゴールの案を記載しております。今後設定する対策・施策においても関係するゴールを記載いたします。</p> |
| <p>栢場龍子委員</p> | <p>(意見では有りません)</p> <p>・コロナ禍により、最近、主婦目線で感じている事が有ります。回りの人々の日常の生活体型に変化が生じている様に思えます。冠婚葬祭の有り方、食(買い物)の有り方等々本当に微々たるものかもしれませんが、チリも積</p> | |

| | | |
|---------|--|---|
| | <p>もればで。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、何か温暖化対策にチャンスが潜んでいる様な気がするのですが（何かは、今は判りません） ・脱炭素型社会の取り組みも、大きく動いた国も有るようですが、私はまだまだ認識不足です。 | |
| 高橋敦司委員 | <p>総合戦略やロードマップを策定しても、市民が「自分ごと」として捉えなければ意味がないものになってしまう。市民に対してわかりやすい説明と理解を求める努力をしてもらいたい。</p> | <p>素案の作成においては、ご指摘のとおり、市民・事業者がわかりやすい表現を心掛けるなど、主体的な取り組みを促すための環境整備に努めます。</p> |
| 出村さやか委員 | <p>■「将来像実現を支える柱（施策体系）」の表現について 『郡山市地球温暖化対策総合戦略（仮称）』の“ゴール”を示したものだと思しますので、「～なまちづくり」ではなく「～なまち」と言い切った方が、目指すまちの在り方＝将来像がはっきりと伝わると思います</p> <p>■『郡山市地球温暖化対策総合戦略（仮称）』の名称について</p> <p>以下の理由により、『郡山市民気候変動対策行動計画』あるいは『郡山市民気候変動対策行動実行計画』としてはどうでしょうか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地球温暖化は、戦略中の「気候変動適応対策」の“気候変動”の一側面であること、また、海外ニュースを見ていると一般的に「Climate Change（気候変動）」の表現を用いていることが多いことから、“地球温暖化”ではなく“気候変動”の用語を用いる。 2 行政だけでなく、市民、事業者も巻き込んだ取り組 | <p>■ご指摘のとおり、目標像は「まち」、対策・施策は「まちづくり」に統一いたします。</p> <p>■ご指摘のとおり、緩和と適応の両側面を含む「気候変動対策」としたいと思えます。本戦略は、温暖化対策推進法に基づく「実行計画」として策定するものであるため、ご指摘のとおり、行政のみの計画ではなく、市民・事業者の行動を促す意図等を本文に記載してまいります。</p> <p>■脚注等に用語説明を記載してまいります。</p> |

| | | |
|--------|--|---|
| | <p>みと理解しています。</p> <p>そうであれば、“総合戦略”という名称ですと行政色が強く出てしまうように思うので、主語を“郡山市民”に、また市民の行動を促す意図で“行動計画”や“行動実行計画”の表現を用いる。</p> <p>■「将来像と実現を支える柱」や「施策・対策」をこのまま市民に示すのであれば、カーボンニュートラルや5レズ、DXの説明があった方が親切かな、と思いました。</p> | |
| 橋本健委員 | <p>地球温暖化については、賛否両論があり、温暖化＝CO₂とも言い難いところもあるかと？</p> <p>しかしながら、国内最大ともいわれる水素製造工場が出来ている福島県においてそれを遣わないことはマイナスと考えます。北九州での実証実験のようなエネファームの利用拡大策も必要と考えます。</p> <p>ゴミの分別に一言！</p> <p>町内においてゴミの分別は、かなり徹底されているものと思われます。しかし、企業のゴミ回収については、以前と何ら変わりはなく、パッカー車がまとめて回収していきま。家庭や学校教育現場で分別の大切さを教えていても、社会に出た瞬間に無意味なものになってしまいます。家庭のごみも企業のごみも最終処理は、一緒ですのでこの仕組みづくりをお願い致します。</p> | <p>二酸化炭素については、地球に住む生物にとって欠かせないものであり、人為的な二酸化炭素等が増加したことによって地球温暖化が起きていると考えられています。人為的な二酸化炭素等を削減するために、化石燃料からカーボンフリー水素へのシフトが重要な対策の一つと認識しておりますので、水素社会実現に向けた施策等を記載してまいります。</p> <p>企業が排出する廃棄物のうち、プラスチックは産業廃棄物であり、焼却することで二酸化炭素が発生し、地球温暖化の原因の一つとなります。企業がプラスチックを含め廃棄物の分別を徹底することにより、資源循環型社会の構築に貢献できることから企業のごみの減量化にも努めてまいります。</p> |
| 長谷川啓委員 | <p>議案について異論はございません。</p> <p>環境問題に関しては、長期的な観点からの対策が重要だと考えています。その意味でいうと、やはり次世代を担う、</p> | <p>本戦略の内容等を含め、環境問題についても出前講座等での小中学生への普及啓発など、工夫を凝らし推進してまいります。</p> |

| | | |
|--------|---|--|
| | <p>感受性豊かな子どもたちへの啓蒙活動は、環境問題への対策としては非常に重要なものではないかと思えます。(既に実施されているものもあるとは思いますが、例えば、小学校等の生徒へのイラストを交えたリーフレットの配布、国立環境研究所等関係施設の見学等)。</p> <p>現時点ですでに可能な限りのご尽力をいただいている職員の皆様にとっては、無責任かつ不遜な意見かとは存じますが、数字として見えにくい部分での環境対策についても、引き続きご検討いただければと思えます。</p> | |
| 古谷博秀委員 | <p>5 + 7の7つの柱で削減の目標量を決め取り組む形は、それぞれの寄与度もわかりやすいと思えます。一方、それぞれの温暖化ガス削減量を満たすためのより具体的な数字については、施策例から読み取るのが難しい項目もあり、難しい課題ではありますが施策との関係性も明確にできるとよりよいように思えます。また、その施策の内、国、県、市の役割を設定したうえで、市民、事業者、行政の役割がわかると、市民としても何をやるべきか、市の行政としては何を目標とすべきかがわかりやすいように思える。</p> <p>また、事業者については、これまでの取り組みにおいても積極的に取り組んでいるように見えることから、その新たな取り組みについてもどのように支援するかの観点も重要と思われれます。その意味で、リゾーム型の体制、分析において、有機的に施策を検討いただくことが大事と思えます。想像するに、これには、市役所内の室や課の壁を越え</p> | <p>リゾーム型の説明を素案に記載するとともに、施策例についても KPI の設定等との関係性が明確となる表現とします。</p> <p>また、役割分担の明確化は効果的な施策の推進にも重要なポイントであることから、これらについても表記するよう努めるとともに、庁内においてもさらなる連携を図ってまいります。</p> |

| | | |
|--------|--|--|
| | <p>ることも必要になるとの認識です。是非、リゾーム型の体制での有効性が発揮できる形を模索、形成いただけると、と思います。</p> | |
| 三浦吉則委員 | <p>温室効果ガス排出削減目標等、将来像における目標で、とくに、2050年度までに実質ゼロの国や世界を上回る目標を設定されたことは、今後、郡山市が重点的に進めていく施策であることを表明されていると感じ、素晴らしいと思いました。</p> | |
| 湯浅大郎委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・「再生エネの活用と水素社会の実現に取り組むまちづくり」の推進に関して、新規風力発電計画の実施に際しては、希少猛禽類のバードストライクを回避することに止まらず、計画地の生物多様性を保全する観点から十分な環境影響評価を行うようお願いします。 ・同じく「再生エネの活用と水素社会の実現に取り組むまちづくり」推進に際して、いわゆるメガソーラーの設置に際しても十分な環境影響評価を実施することとあわせて、計画実施によって現在の自然景観が大きく損なわれることのないよう、(関連条例の整備等を含め)適切な指導をお願いします。 ・「地球環境の整備・発展による便利で快適なまちづくり」の推進に関しては、2018年11月、郡山商工会議所が設置したプロジェクトによる「郡山ランドデザイン」が発表されていることから、その中にある地球温暖化対策に有用な提言(LRTの整備など)の実現可能性について、先進地視察を行うなどして研究することを提案しま | <ul style="list-style-type: none"> ・環境影響評価等を踏まえて再生可能エネルギーを拡大していく旨の記載をいたします。 ・発電設備容量30MW以上のメガソーラーについては、2020年4月1日から環境影響評価法の対象とされたことや環境省のガイドライン等を踏まえて、適切に対応してまいります。 ・商工会議所や地区商工会と連携するなど、中小企業等の積極的な取り組みを促しながら環境施策を進めているところです。 ・事業者の「福島議定書」事業(県事業)への参加をKPIとして数値目標を掲げるなど、商工会議所及び地区商工会広域協議会と連携しながら施策の推進を図ってまいります。 ・ごみの適正処理による排出削減は資源循環型社会の構築だけでなく、二酸化炭素の排出量削減に寄与するものであることから、ごみ処理費用の適正負担(有料化)について「廃棄物減量等推進審議会」に |

| | | |
|--|---|---|
| | <p>す。現状、商業所と市の連携はやや希薄であるように感じます。</p> <ul style="list-style-type: none">・「限られた資源を活用する循環型まちづくり」の推進に関して、新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言発出の影響等により増大した家庭ごみの排出量を減量する観点からは、指定ごみ袋の購入等によるごみ処理有料化の可能性を探ることも必要であると考えます。また、高齢者等にとって複雑で実行しにくい現在のごみ分別のルールを大幅に簡素化できないか、簡素化のために必要となるインフラの整備等も含めた検討が必要であると思います。 | <p>おいて議論をいただいているところであります。今後、高齢化社会を見据えた生活ごみの回収方法等の在り方についても関係部局等と連携しながら検討を進めてまいります。</p> |
|--|---|---|